

平成26年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	図書館・文化ホール等建設事業			
予算科目	10 款 5 項 6 目			
総合計画での位置付け	教育・文化・スポレクの振興～うるおいと生きがいのひとづくり～生涯学習の推進			
所管課情報	担当課:	庁舎建設課	電話番号(内線):	582
記入者情報	所属長:	武智 年哉	担当責任者:	久田 達夫
実施期間	【開始年度】平成 25 年度 【開始年度】平成30年度			
事業の対象	市民			
事業の必要性	生涯学習や創造・文化芸術活動を通じて未来を担う子どもたちやそれを支える人たちが育つだけでなく、「ひと・まち・ぶんか」が出会い、つながっていく仕組みを創るため			
施工方法、場所	【施工方法】	請負	【施工場所】	伊予市米湊
運営方法	【運営方法】	直営・指定管理	【運営費(予定)】	
事業の目的	老朽化・狭隘化・バリアフリー等に問題のある図書館・文化ホール・公民館を複合施設として整備することで、多様な目的で訪れる幅広い利用者の要望に合った活動空間が提供でき、新たな出会い・発見・交流の機会を創設する。			
事業の内容	図書館・文化ホール・公民館 鉄筋コンクリート造3階建て 述べ床面積:5,500㎡駐車場 鉄骨造平屋建て(2層屋上駐車場) 延べ床面積:1,140㎡※基本設計時点に変更			
改善策の具体的な取り組み(当初)	建設市民ワークショップの開催により、施設に対する市民の提案を可能な限り設計に取り入れた。			
改善策の具体的な取り組み	評価を行政評価委員会に諮る。			

事業費及び財源内訳							
項目	25年度決算	26年度予算	9月末の執行状況	26年度決算			
事業費	直接事業費	377	41,040	6,093	40,552		
	人件費	3,254	19,885	3,022	19,885		
	合計	0	60,925	9,115	60,437		
人件費内訳	人工数	0.40	2.50	0.38	2.50		
	人件費単価	8,135	7,954	7,954	7,954		
	補助事業人件費	0	0	0	0		
	人件費	3,254	19,885	3,022	19,885		
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0		
	県支出金	0	0	0	0		
	地方債	0	7,300	0	0		
	その他	0	31,000	0	38,700		
	一般財源	3,631	22,625	9,115	21,737		
実施スケジュール							
項目	25年度以前	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度以降
地質調査・基本・実施設計		39,197	96,050				
工事監理				12,000	36,000	12,000	10,000
既存施設解体				43,300		34,000	
施設建設				758,000	1,460,000	892,000	
外構整備							280,300
年度別事業費	376	40,551	103,582	945,143	1,496,500	1,141,541	293,800
財源	国・県支出金			330,100	523,600	328,300	
	地方債			63,500	582,500	579,200	179,200
	その他		38,700	29,000		61,517	101,600
	一般財源	376	1,851	11,082	32,543	49,200	172,524
国・県支出金等名称	合併特例債・社会資本整備総合交付金・建設計画推進基金繰入金						

成果指標				
成果指標	事業進捗率(事業費)経過年度進捗÷全体×100			
指標設定の考え方	実施スケジュールに基づき工程管理を行い、目標年度での完成を目指す。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目標	0	-	-	100
実績	-	-	-	-

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	ワークショップ開催による市民の意見の集約を行い、設計に反映させることにより、多くの市民が参画でき、種々の活動の拠点となる施設の建設を速やかに執行する。併せて、管理運営計画のワークショップと連携し、市民の使いやすい施設の完成を目指す。また、財源の切り替え等により多少の計画変更はあったが、早期の工事発注及び目標年度内での完成を目指す。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	中心市街地や市役所に近く、国道378号やJR、伊予鉄道などの交通の利便性も良い、公民館及び図書館敷地に、文化芸術振興、学習・創造活動の支援拠点となる、図書館・文化ホール等を配した新たな複合型文化施設の建設が計画された。「学び はぐくみ つながる 出会いのひろば」をコンセプトに、市民の皆さんの思いや考えを取り入れ、よりよい施設にするためのワークショップ(話し合いの場)を開催し、出された意見や考えは、可能な限り設計に反映させることとした。本プロジェクトにおいては、基本設計作成過程で、すでに9回にわたりワークショップが開催され、示唆に富む貴重な意見が多数寄せられており、これらをいかにまとめ上げていくかが大切である。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。
意見、課題	建設経費の増嵩が懸念されるため、ワークショップで集約された意見を取り入れながら、設備費用の抑制などにより、設計金額の低減を図ること。また、備品についても管理運営計画の策定と連動させ、過度なものにならないよう計画すること。

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

下記の点を見直しの上、継続する。

意見、課題

二次評価の内容を踏まえ見直すこと。